



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

しらこぼと

2020.9

No.438

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O



コロナ禍の下で探鳥会の再開を目指して

普及部長 長野誠治

1. はじめに

日本国内での新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が拡大したため、2月末以降、当会主催の探鳥会は開催を見送ってきました。5月下旬に緊急事態宣言が全面的に解除され、感染拡大も幾分落ち着く気配もみられましたが、7月に入って再び感染者数の増勢傾向が顕著になってきています。

そのようななかで探鳥会の再開に向けてどのような準備をしているのかについて、説明いたします。

2. 新型コロナウイルス感染拡大から緊急事態宣言解除までの対応

今年2月に入って感染拡大が顕著になったことから2月26日に代表および副代表を交えて「2月29日から3月末までの全探鳥会の中止」することを決定し、全役員、関係報道機関および（公財）日本野鳥の会（以下、本部と称す）に事務局を通じて、その旨を連絡しました。これは同日の安倍首相からの「イベント2週間自粛」要請や翌27日の本部理事長からの「探鳥会等の中止または延期のお願い」よりも早いタイミングでの決定でした。

さらに3月12日には「4月の探鳥会は感染拡大の収束が見通せないため中止とする」議案が、4月3日には「5月の探鳥会は感染拡大の収束が見通せないため中止とする」議案が役員会で承認されました。さらに4月7日には政府から緊急事態宣言が発令され、本部からも理事長名で「探鳥会等の中止または延期のお願い」が発表されたことを受けて、4月19日に「6月の探鳥会は感染拡大の収束が見通せないため中止とする」議案が役員会で承認されました。

3. 緊急事態宣言解除から探鳥会再開に向けての取り組み

5月27日に東京、埼玉などを含めて緊急事態宣言が全面解除されました。しかし、探鳥会における感染防止策をしっかりと検討する必要があること、夏場にマスクを着用しての

探鳥会は熱中症の発症リスクが高まる懸念があることから、5月27日に「7月および8月の探鳥会はすべて中止とする」議案が役員会で承認されました。

探鳥会再開に向けてどのように対応すべきかについて5月中旬以降、本部普及室から発せられた「探鳥会を開催する場合の配慮事項」（『しらこぼと』7月号P8参照）をベースに役員同士メールで議論を重ねました。これには25名近くの役員が積極的に参加し、様々な意見が寄せられました。「感染リスクがあるなかでは探鳥会は開催すべきではなく、少なくとも年内は見送るべきである」「マスク着用が求められたり、参加者同士のおしゃべりが制限されたりする探鳥会は本来のあるべき姿から大きく乖離しており、開催には消極的にならざるを得ない」などの慎重な意見も出ましたが、全体では「感染予防を十分行い、工夫をしながら開催準備をしていく」という意見が多数を占めました。

この結果を受けて「コロナ禍の下での探鳥会運営マニュアル」を作成しました。さらに探鳥会再開にあたっての課題抽出とその対策の検討のために、またマニュアルの内容確認とブラッシュアップを兼ねて7月5日に渡良瀬遊水地で模擬探鳥会（右ページの写真）を開催しました。当日は役員有志12名が参加し、ルート設定、受付方法、グループ編成、鳥に関する説明方法、鳥合わせなど様々な観点から意見交換を行い、大変有意義なものになりました。

4. 「コロナ禍の下での探鳥会運営マニュアル」の作成について

「コロナ禍の下での探鳥会運営マニュアル」については、今後も改訂をしていき、より安心できる探鳥会を目指していきたいと考えています。参加される皆さんに関連した事項について、箇条書きでご案内します。再開後の“新たな探鳥会”についてイメージしていただけだと思います。

① 受付

- ・受付では、マスク着用の確認、非接触型体温計による測定。手の消毒の後、参加受付カードおよびチェックリストの配布（手渡しせず各自に取ってもらう）を行う。
- ・受付で参加者を順次10名単位で班分けし、班ごとに待機場所へ移動。大人数で集まることを避ける。
- ・参加者への説明は全体では行わずに、班ごとに行う。

② 出発まで

- ・1グループ10名以内とし、リーダー2名で担当する。
- ・受付カードに記入してもらう。筆記用具は参加者に持参してもらう。
- ・受付カードは回収箱に入れてもらう。感染時の保健所からの照会対応のため住所および電話番号は必ず記入してもらう。
- ・参加費の集金は集金箱・袋に入れてもらう。両替は参加者自身でやってもらう。
- ・準備が整ったら班別に順次出発する。全体行動は取らずに鳥合わせ・解散まで班別に行動する。

③ 探鳥中の留意点

- ・密にならないようにソーシャル・ディスタンスを図る。
- ・リーダーは望遠鏡を使用せずに（初心者への対応は検討要）、双眼鏡のみとする。
- ・参加者自身が望遠鏡を持参した場合は、眼からの感染を防ぐため、あくまで自分自身の使用に留めることを願います。
- ・鳥などの説明は集まって行わない。図鑑も使用しない（大型の絵本や説明資料の配布などの工夫が必要かもしれない。その際は、著作権に十分注意する必要があります。特

に探鳥会スタッフ通信 2020年3月号：
<https://www.wbsj.org/info/shibu/tancho/staff202003.pdf> をご参照ください。

- ・公衆トイレはドアや洋式便座等感染リスクがかなり高い。トイレが終わった後、各自手洗いや消毒を励行してもらう。

④ 鳥合わせ・解散

- ・鳥合わせは班ごとに行い、終了したらそのまま解散する。
- ・終了後メインリーダーは受付カード及び参加費を各班のリーダーから受け取る。
- ・探鳥会での出現鳥記録について、各班での同一種の参考記録が全体で2班以上に渡った場合は、当該種を正式記録とする。
- ・全体での出現鳥の記録は、『しらこぼと』の行事報告に記載されるまで相当なタイムラグが生じるため、当会ホームページなどで参加者が出現記録の情報を共有できるように工夫する。

5. おわりに

7月中旬以降、埼玉や東京などで感染者数が最多を記録するなど再び感染拡大が顕著になってきています。このため、9月の探鳥会は、予約探鳥会も含めすべて中止することにしました（8月3日に役員会で承認）。

1日も早い探鳥会の再開を待ち望んでいるのは会員の皆様と同様に我々役員やリーダーも然りです。しかし、感染予防を徹底し、安心して参加していただける環境の整備はそれ以上に重要だと考えています。開催までに模擬探鳥会や打ち合わせを積み重ねていく所存です。

なお、探鳥会の開催が決まり、『しらこぼと』に行事案内が掲載される際には、改めて参加にあたっての注意事項およびお願いについて記載する予定です。引き続きご理解とご協力をお願いいたします。



カワウの恩恵にあずかるサギたち

山口芳邦（新座市）



写真は2年前の9月、拙宅近くの柳瀬川の橋からの光景です。

川下から20羽くらいのカワウとそのあとを追って15羽くらいのサギ類（ダイサギ、コサギ、アオサギ）がやってきました。

9月はアユがすっかり大きくなっていてカワウはそれをつかまえて食べます。長良川の鶺鴒（ウミウ）がつかまえたアユは人間様の胃袋に収まりますが、柳瀬川のカワウはつかまえた後ただ自分たちのおなかに放り込めます。カワウは群れて川の中央から岸边近くまでアユを追いかけますが、サギたちは川辺の浅瀬に立ってカワウに追い立てられ岸近くまで逃げてきたアユたちをつかまえます。通常アユはサギたちが入れない深さのところを泳いでいますので、サギたちはカワウと行動を共にすることによって普段食べられない高級魚にありつけることとなります。サギたちはこの後もカワウを追いかけて上流に移動していきました。他の川でも同じ光景が見られるかもしれませんが、柳瀬川は川幅が適当に狭いのと魚類が豊富なので時にこういう行動が見られます。

今年は昨年の産卵時期の台風19号の影響からか、多摩川同様、柳瀬川もアユの遡上が極端に少なく、このような光景は見られません。来年はまたたくさんアユが遡上し、鳥たちの胃袋だけでなく、釣り人たちの楽しみも十分満たしてあげられることを願っています。

数年ぶりに我が家からツバメの巣立ち

中村圭子（鴻巣市）

3月25日に初飛来確認後、4月2日から古巣のリフォーム開始。以下は親鳥の行動からの推測です。不正確かもしれませんが。

4月18日頃から抱卵。5月7日から孵化したらしいです。5月30日、5羽巣立ちました。

その後、1週間ほどは夜に帰ってきていましたが、もう時々しか姿を見ません。

カラスやオナガ、ネコにも負けずによく巣立ってくれました。来年も元気に帰って来てほしいものです。

「恐竜の末裔なりやツバメの子」

◆メボソムシクイ、オオムシクイ、コムシクイについて、メールの楽しいやり取りが届きました（編集部）。

石川敏男（春日部市）：古い図鑑にはオオムシクイとコムシクイは掲載されていません。

日本人研究者が研究結果をまとめた論文を国際誌に提出され、認められたのが2011年2月とのこと。詳しくは以下のサイトを参照してください。興味深いと思います。

<https://www.yamakei-online.com/yama-ya/detail.php?id=472>

ちなみに

メボソムシクイ Japanese Leaf Warbler

オオムシクイ Kamchatka Leaf Warbler

コムシクイ Arctic Warbler

それぞれの分布（主繁殖地）を反映したNameになっています。

藤原寛治（さいたま市）：オオムシクイというのは昔コメボソムシクイと呼ばれていたムシクイですね。改めて高野伸二(1982)『フィールドガイド日本の野鳥』を見るとコメボソムシクイは「ジジロジジロ」と鳴くと出ていました。

私も渡りの時期に「ジジロジジロ」という声は何度か聞いた経験がありますが、ずっとコメボソムシクイだと思っておりました。最近の研究では「ジジロジジロ」と鳴くのは、オオムシクイだということなんですね。

ありがとうございます。



野鳥情報

さいたま市見沼区上山口新田付近 ◇2月4日、芝川の浚渫等改修工事が始まっていた。環境の変化が鳥にどう影響するかこれからも観察を続けたい。ヨシガモ6、カルガモ7、コガモ21、カイツブリ1、アオサギ1、バン4、オオバン多い、オオタカ若鳥1が芝川の水面近くを上流に向かって飛んだ。カワセミ、チョウゲンボウ1、モズ3、ヒバリ、ウグイス1、メジロ3、ツグミ、セグロセキレイ、ホオジロなど。2月11日、ヨシガモ5、コガモ12、カイツブリ3、アオサギ1、ダイサギ1、バン1、オオバン80±、カワセミ1、モズ2、ヒバリ5が一緒に田圃から飛び立った。メジロ4、ツグミ、ホオジロ1など。2月24日、キジ♂1、オカヨシガモ27(移動中の群れのようなだ)、ヨシガモ5、コガモ12、カイツブリ1、カワウ1、バン1、オオバン(まだまだ多くいる)、カワセミ2、チョウゲンボウ♂1♀1、モズ♂1♀1、ヒバリ3、ツグミ、スズメ、ハクセキレイ5、セグロセキレイ1、ホオジロ4+、アオジ2など。(森本國夫)。

さいたま市 大宮公園 ◇2月6日、カルガモ3、ハシビロガモ1、オナガガモ11、キンクロハジロ2、ミコアイサ♀1、カイツブリ4、オオバン4、カワセミ1、コゲラ、キクイタダキ5±、シジュウカラ、エナガ、メジロ、ツグミ、ビンズイ4、シメなど。2月12日、カルガモ2、オナガガモ7、キンクロハジロ8、ミコアイサ♀1、カイツブリ4、ゴイサギ成鳥1、オオバン4、オオタカ、カワセミ1、コゲラ、キクイタダキ、ウグイス1、エナガ、メジロ、ツグミ、ビンズイ6、シメ、アオジ♂1など。2月25日、オナガガモ4、キンクロハジロ6、ミコアイサ♀2、カイツブリ、カワウ2、オオバン4、オオタカ、コゲラ、モズ、キクイタダキ、シジュウカラ、ウグイス、エナガ、ツグミ、ジョウビタキ♂1、ビンズイ6、シメ、カシラダカ2(氷川神社社叢

の林床で採餌)、アオジなど。2月29日、カルガモ4、キンクロハジロ8、ミコアイサ♀2、カイツブリ、カワウ1(大きな魚を飲み込んだ)、オオバン、カワセミ1、コゲラ、シジュウカラ(囀る)、ウグイス(笹鳴き)、エナガ、メジロ、ツグミ、ビンズイ4、シメなど。(森本國夫・陽子)。

蓮田市関戸 N36.0063 E139.6351 ◇2月7日、綾瀬川で久しぶりにクイナ(下写真)を見ることができた(関口明宏)。



松伏町 松伏総合公園 ◇2月9日から3月20日の間、オカヨシガモ2つがいと♂1を観察した。3月21日は観察を休んだ。翌22日から確認できなくなった。

1月13日から3月19日まで、カンムリカイツブリ1を観察した。翌20日から確認できなくなった。観察期間中に冬羽からほぼ完全な夏羽に換羽したことを確認できた。

2月13日から3月22日まで、アカエリカイツブリ1を観察した。3月23日は観察を休んだ。翌24日から確認できなくなった。カンムリカイツブリと換羽の進み具合を比較すると、アカエリカイツブリは最終確認日でも冬羽からあまり換羽が進んでいなくて不思議だった。成鳥と若鳥の違いかなと思った(尾上愛実)。

さいたま市岩槻区 岩槻文化公園 ◇2月9日、強風の中、オオタカ成鳥の後ろを騒ぎもせずカラスがついて飛び林内へ。1時間半後、オオタカが林から飛び出す。他にアカゲラ♀1、ホオジロ、カシラダカ、コゲラ、シジュウカラ、エナガ、メジロなど。シロハラ1W(編集部註:第1回冬羽=孵化して最初の換羽後の冬の姿)が水浴び後の羽繕い(鈴木紀雄)。

越谷市 越谷レイクタウン ◇2月11日、ハ

ジロカイツブリ1、カンムリカイツブリ6、ユリカモメ385。日の出前の大相模調節池でユリカモメ385羽の群れをカウントした。集団ねぐらにしていた様子。日の出と共に数羽を残して、ほとんどが飛び去った。昨年12月にも日の出前に行った日があったがユリカモメの集団ねぐらは観察できなかった。ので、渡り前の集結行動の可能性もある。2月22日、カンムリカイツブリ2、ベニマシコ♀1（鈴木 功）。

草加市柿木町 柿木田んぼ ◇2月11日、ホオアカ3、カシラダカ10+（鈴木 功）。

蓮田市閩戸 N36.0061 E139.6389 ◇2月12日、朝の散歩で小型の綺麗な鳥を見つけた。図鑑で調べたらソウシチョウだった（関口明宏）。

久喜市菖蒲町小林 ◇2月12日午後1時30分、ミヤマガラス250±。刈り田に降りたり飛び上がった（小貫正徳・とみ子）。

草加市柿木町 そうか公園 ◇2月16日、トラツグミ1（下写真）、最短で足元2～3mの至近距離で観察できた。警戒心の強い個体が多いので、こんな個体は初めて。驚いた。2月22日、ルリビタキ♀型1（鈴木 功）。



草加市柿木町 中川河川敷 ◇2月16日、カンムリカイツブリ1、オオタカ成鳥1、ハイタカ♀型1（鈴木 功）。

さいたま市見沼区 見沼自然公園 ◇2月17日、トモエガモ♂の換羽が完了したようだ。池でヒドリガモ多数。オナガガモ、カルガモ、コガモ、カイツブリ、バン、アオサギなど。林でシメ、アオジ、ムクドリ、シジュウカラ、カワラヒワ、モズ、シロハラなど。芝生広場でハクセキレイ、ツグミなど（長嶋宏之）。

さいたま市中央区 与野公園 ◇2月17日、

カルガモ12、シジュウカラ10+とコゲラ、エナガの混群、キジバト6+、シロハラ1、ツグミなど（大塚純子）。

さいたま市桜区 鴻沼川 ◇2月17日、新開橋上流でヨシガモ♂8♀7、ヒドリガモ♂1♀2、オオバン2、ハクセキレイ、ヒヨドリ、ムクドリ（陶山和義）。

蓮田市本町 N35.983 E139.652 ◇2月17日、蓮田駅に向かう途中、信号待ちをしていたら目の前にイソヒヨドリ♂が歩道に降りてきて、びっくり。すぐに、飛んではす向かいの商店の看板の上に止まった。派手だけど、離れて見ると地味に感じた（細田雅子・敦史）。

さいたま市の鴨川 ◇2月19日、島根橋～学校橋でキジ♀2、オオバン12+、コガモ35+、カワセミ、カイツブリ、イソシギなど（大塚純子）。

上尾市地頭方～平方領領家 ◇2月19日、ムクドリ、メジロ、シジュウカラ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、キセキレイ、オナガ、エナガ、カワラヒワ、コゲラ、アカゲラ、アオジ、ホオジロ、ジョウビタキ、ツグミ、シメ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、ウグイス、タヒバリ、シロハラ、モズ、カルガモ、イカルチドリ3など。カワセミとキジは冬期の鳴き方をしていた（村越百合子）。

吉見町 吉見総合運動公園 ◇2月19日、小さなタカが小鳥を追ったが狩りに失敗。枝にとまったタカを観察したらコチョウゲンボウ♀だった。ノスリがカラスの追撃からほうほうの体で逃れ、飛び去った。キジバトを追ったタカが樹の枝にとまった。確認したら、コチョウゲンボウのみだった。他にチョウゲンボウ、アリスイ、アオジ、モズ、カワラヒワ、ホオジロ、キセキレイ、ハクセキレイなど（長嶋宏之）。

北本市 北本自然観察公園 ◇2月19日、ベニマシコ♀2、飛んできて目の前の枝先にとまった。ジョウビタキ♀が手の届きそうなところで愛嬌を振りまいた。美しいキジ♂1が枯草の上を歩いて採餌。他にカワセミ♀2、カケス、エナガ、キセキレイ、ア

オジ、セグロセキレイ、コガモ、マガモ、ハシビロガモ、カイツブリなど(長嶋宏之)。
◇2月24日、ヒヨドリ、ムクドリ、エナガ、メジロ、シジュウカラ、ツグミ、ウグイス、カワラヒワ、アオジ、ホオジロ、シメ、カシラダカ、モズ、セグロセキレイ、ハクセキレイ、カルガモ、カワセミ、アオサギ、コサギ、コガモなど。バンの幼鳥を梅林が密集している近くの池で2羽見ることが出来た(村越百合子)。

川島町東野～桶川市川田谷の荒川右岸河川敷 ◇2月19日、畑やホンダエアポートの滑走路周辺の草地にタゲリ196(森本國夫・陽子)。

春日部市谷原親水広場付近 ◇2月20日、キジバト、ダイサギ、クイナ1、ヒクイナ1、カワセミ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ムクドリ、ツグミ、スズメ、カワラヒワ、シメ、カシラダカ(森本國夫・陽子)。◇2月27日、コガモ、キジバト、ヒクイナ1、モズ2、ミヤマガラス300±、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、ムクドリ、ツグミ、スズメ、ハクセキレイ、ホオジロ、カシラダカ(嶋田富夫)。

さいたま市西区 三橋総合公園 ◇2月20日、クイナ1、バン30+ (下写真)、オオバン20+など。2月21日、タシギ2、バン30+、オオバン20+など(嶋田富夫)。



さいたま市南区 別所沼 ◇2月25日、キンクロハジロ♂26♀7(陶山和義)。

白岡市 総合運動公園 ◇2月28日、カルガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、コガモ、マガモ、カイツブリ、カワウ、アオサギ、カワラヒワ、ハクセキレイ、ツグミ、アオジなど(長嶋宏之)。

松伏町ゆめみ野東 ◇3月1日、松伏総合公

園でアカエリカイツブリ冬羽1、カンムリカイツブリ夏羽移行中1(鈴木 功)。

さいたま市中央区 JRさいたま新都心駅 ◇3月2日、改札デッキ東入口付近でイソヒヨドリ♀1(大塚純子)。

野鳥情報をお待ちしています

こんな鳥見たよ！こんな事してたよ！今年も飛んできたよ！ちょっとみんなに伝えたい野鳥の話、季節感のある情報、見慣れた鳥のちょっと面白い行動、この場所では、この季節ではあまり見かけないかな…など、様々な情報をお待ちしています。

情報は、野鳥の会埼玉ホームページ掲載のアドレスにメールでお送りください。写真も一緒にお送りいただくと、カット写真として掲載できるかもしれません。ハガキかFAX048-825-0460でも受け付けています。電話など口頭での連絡はお受けできません。まれに、お名前を忘れる方がいます。特にメールの場合、漢字のフルネームをお忘れなく。

いただいた情報はできるだけそのまま掲載するよう心がけていますが、明らかに誤りと思われる情報、あるいは、公開することによって生息に影響を与える危険性のある、猛禽、その他希少種の繁殖期の情報は、掲載を控えています。また、希少種の情報では、写真などの客観的な裏付けがない場合でも、記述されているその場の状況、観察された特徴等から、情報として掲載しても差し支えないと判断したときはそのまま掲載することもあります。採否は編集部にお任せください。

なお、お寄せいただいた全ての情報は貴重です。そこで調査部では、『しらこぼと』に掲載した情報だけでなく、掲載できなかった猛禽、その他希少種の繁殖期の情報も含めて、報告者名と共に、県内野鳥データベースに記録しています。(編集部)

表紙の写真

タカ目タカ科ハイタカ属オオタカ

7月24日に撮影した今年生まれの幼鳥ですが、すでに王者の風格です。

田口勝利(さいたま市)



9月も全ての探鳥会が中止ですが、10月の 予約探鳥会は開催準備を進めます。 普及部

新潟県 小千谷市・山本山高原～ 魚沼市・奥只見銀山平探鳥会【中止】

7月号でご案内した9月12日(土)～13日(日)に実施予定だった上記予約探鳥会は、新型コロナウイルス感染拡大のために中止としました。参加を申し込まれた方々には、個別に連絡を差し上げましたが、ご理解のほどよろしく願い申し上げます。

長野県・戸隠高原探鳥会(要予約)

期日：10月17日(土)～18日(日)
集合：17日午前9時、長野駅コンコース、新幹線改札口を出て右側。
交通：新幹線「あさま601号」(東京6:52→大宮7:18→熊谷7:31→高崎7:46→長野8:38着)、または「かがやき503号」(東京7:20→大宮7:46→長野8:43着)など。
解散：18日16時頃、長野駅前。「あさま626号」(16:23発)に乗車できるように調整。
費用：16,000円の予定(1泊3食、現地バス代、旅行保険料等)。万一過不足は当日清算。集合地までの往復交通費は各自負担。

定員：14名(定員を超えた場合は抽選、埼玉支部会員優先)。

申し込み：往復はがきに住所、氏名(ふりがなも)、旅行時の年齢、性別、電話番号、メールアドレス、喫煙の有無を明記して、菱沼一充()まで。9月1日～15日の消印のものから抽選します。

担当：菱沼(一)、浅見(徹)、近藤、菱沼(洋)
見どころ：秋の旅鳥と新そばを楽しむ。今回はコロナ対策のため、参加人数を少なくして実施いたします。

その他：宿泊は男女別2名1室(夫婦は同室)。

【注(重要)】

新型コロナウイルスの感染拡大が収まらない場合は、開催を中止します。中止の場合は、申し込みをされた方へ個別にメインリーダーからご連絡を申し上げます。

申し込みされた方との連絡を密にするために、今回からメールアドレスも記載いただくことにしました。ご理解のうえ、ご協力、よろしく願いいたします。

「タカの渡り調査」と「シギ・チドリ類の渡り調査」も中止

調査部

毎年恒例の天覧山と中間平における「タカの渡り調査」は、屋外ではありますが混雑・密集を避けるため、日本野鳥の会埼玉としての調査を中止します。また、さいたま市の大久保農耕地で会員の皆様のご協力を得て毎年春・秋に実施している「シギ・チドリ類の渡り調査」も、この秋は調査部員だけでひっそりと実施したいと思います。新型コロナウイルス感染防止のための措置とご理解いただき、ご協力をよろしく願います。

なお、当会のホームページではタカ類やシギ・チドリ類の渡り情報を募集しています。皆さまからお寄せいただいた情報は、ホームページ上で公開するとともに、当会の貴重なデータとして渡りルート の 解明、保護活動などに役立たせたいと思います。トップページの左下隅にある「[口 県内渡り観察情報](#)」をクリックしてみてください、今までの観察記録が閲覧できます。情報募集要項も載っています。皆さまからの投稿をお待ちしています。



行事報告

1月26日(日) 狭山市 入間川

参加: 16(会員11)名 天気: 曇

キジ オカヨシガモ マガモ カルガモ コガモ
カイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイ
サギ コサギ オオバン イカルチドリ イソシ
ギ ユリカモメ カワセミ コゲラ チョウゲン
ボウ ハシボソガラス ハシブトガラス ヤマガ
ラ シジュウカラ ヒヨドリ エナガ メジロ
ムクドリ シロハラ ツグミ ジョウビタキ イ
ソヒヨドリ スズメ キセキレイ ハクセキレイ
セグロセキレイ タヒバリ カワラヒワ ホオジ
ロ カシラダカ アオジ (39種+カモ交雑種1)
(番外: ドバト) 昨年10月の台風の影響で、川
の流れや形が変わり鳥たちの居場所も変わって
いる。いつものコースをやや外れた少し下流に多い。
カワセミ、イカルチドリ、イソヒヨドリがよく見
られた。水辺の鳥たちは多く、天気を気にしながら
らやってきた参加者たちも楽しめたと思う。

(長谷部謙二)

2月1日(土) 嵐山町 菅谷館都幾川

参加: 36(会員32)名 天気: 晴

キジバト カワウ アオサギ ダイサギ イカル
チドリ イソシギ トビ オオタカ ノスリ カ
ワセミ コゲラ アカゲラ アオゲラ モズ ハ
シボソガラス ハシブトガラス ヤマガラ シジ
ュウカラ ヒバリ ヒヨドリ ウグイス エナガ
メジロ ムクドリ シロハラ ツグミ ジョウビ
タキ スズメ キセキレイ ハクセキレイ セグ
ロセキレイ カワラヒワ シメ ホオジロ カシ
ラダカ アオジ (36種) (番外: ドバト、ガビチ
ョウ) 風も無く快晴。いきなりアカゲラが3羽、
アオゲラも出現と出だしは好調。しかし、林では
小鳥の動きが少なくちょっと焦る。河原で何とか
カワセミ、イカルチドリ、イソシギが見られ、ノ
スリが低空で飛んでくれて一安心。都幾川は浚渫
工事中だったが、ホオジロ、カワラヒワ、きれい
なアオジなどを見て、最後にオオタカも出て、36
種は今季としてはまずまずだろう。(新井 巖)

2月1日(土) 所沢市 狭山湖

参加: 32(会員19)名 天気: 快晴

オカヨシガモ マガモ カルガモ コガモ カン
ムリカイツブリ ハジロカイツブリ キジバト
カワウ アオサギ トビ ツミ オオタカ コゲ
ラ カケス ハシブトガラス ヤマガラ シジュ
ウカラ ヒバリ ヒヨドリ ウグイス エナガ
メジロ シロハラ ツグミ スズメ ハクセキレ
イ タヒバリ カワラヒワ シメ アオジ (30種)
開始の挨拶中に上空をオオタカが飛び中断させら
れ、さらにハクセキレイが周辺を動き回るなど、
出足は好調。次いで、近くの屋根にとまったアオ
サギを至近距離で観察し、シロハラ、シメ、エナ
ガ等の小鳥と親しんだ。湖畔では木陰に動くタヒ
バリに振り回され、最後はハジロカイツブリの赤
い目が「見えた!」「見えない!」で盛り上がった。
種、数とも少な目ではあったがバラエティに富ん
だ探鳥だった。「タヒバリはどこが逢うのビ
ンズイと 識列楽し近縁の鳥」(石光 章)

2月2日(日) 北本市 石戸宿

参加: 38(会員34)名 天気: 快晴

マガモ カルガモ コガモ カイツブリ キジバ
ト カワウ アオサギ ダイサギ バン ツミ
ノスリ カワセミ コゲラ アカゲラ サンショ
ウクイ モズ ハシブトガラス ヤマガラ シジ
ュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ
シロハラ ツグミ ジョウビタキ キセキレイ
ハクセキレイ セグロセキレイ ベニマシコ シ
メ ホオジロ カシラダカ アオジ (34種) 最
初のふれあい橋でアオジ、カシラダカ。木道で前
方の草原に多数のシジュウカラが降りたり飛び交
ったり。後方の人たちがツミをじっくり見たと聞
く。高台から降りた所で至近距離のベニマシコを
望遠鏡に。サワラの並木でクイタダキを探す
が気配なし。河川敷で上空を舞うノスリ。ヨシ原
を次々と移動するのはカシラダカ。池の隣のヨシ
原にカワセミ。望遠鏡を30倍にして画面いっぱい
に。最後は刈られて見通しの良い湿地。対岸のシ
ロハラを望遠鏡に入れていたら「ヒリヒリ」と一
声。探していたリュウキュウサンショウクイだ。
終了時間が過ぎていたので、名残惜しい皆さんを
「鳥合せに遅れると他の人に迷惑をかけます」と
急いでもらってその場を離れた。(吉原俊雄)



●『新・日本の探鳥地 首都圏編』初版第2刷発売

2017年に当会会員たちが埼玉県の一部を執筆して発売された文一総合出版『新・日本の探鳥地 首都圏編』の、鳥情報・公園情報などを更新した2020年7月10日初版第2刷が発売されました。



埼玉県部分を12名の会員の皆さんが更新執筆、廣田純平幹事がとりまとめ役となりました。

2017年版と2020年版は表紙、裏表紙、A5版のページ数、『新・日本の探鳥地 首都圏編』の書名も同じです。同社編集部からの連絡によれば、「2017年版はまだ書店やネット通販上に在庫があるので購入の際はご注意ください」とのこと。2017年版は定価1,500円+税、2020年版は定価2,200円+税。2020年版の最終ページ(奥付)には「2020年7月10日初版第2刷発行」とあります。改訂版ではないので「初版第2刷」としているとのこと。

●会員数は

8月3日現在1,513人です。

6月号と7月号の本欄で、5月1日現在と6月1日現在の会員数を「後日報告します」としましたが、本部会員室から、その2ヵ月分の会員数を取りまとめることができないとの連絡がありました。

活動と予定

●7～8月の活動

- 7月13日(月)、『しらこぼと』8月号入稿。
- 7月17日(金)、同8月号埼玉事務局発送分納品。
- 7月20日(月)、同8月号を、『野鳥』誌と同封送しない会員向け、郵便局から発送(海老原美夫、山部直喜)。
- 7月27日(月)～8月8日(土)、メール交換による『しらこぼと』9月号編集・校正作業(相原修一、浅見徹、海老原美夫、長嶋宏之、藤原寛治、森本國夫、山口芳邦、山部直喜)。
- 7月29日(水)～8月3日(月)、メール交換による役員会を開催。**議案第1号**「9月の探鳥会は12～13日新潟県山本山・銀山平探鳥会を含めて、全て中止する。」**議案第2号**「10月17～18日に長野県戸隠高原探鳥会(予約)を開催する。そのため募集案内を『しらこぼと』9月号に掲載するが、新型コロナウイルスの感染状況によっては開催中止とすることを明記する。中止は、役員会を経ずに普及部長またはメインリーダーが判断する。その判断は普及部長を通じて直ちに役員会に報告する。」との議案を承認した。

編集後記

6月号でも報告した「アオバヅクの見守り」ですが、どうやら今年は繁殖に失敗したようです。6月上旬から姿・行動を確認できません。それまではみずとも例年通りの活動でした。情報を整理すると人為的な事故ではなさそうです。自然界で起きる事故ならば過去にもありました。来年を期待します。(山部)

しらこぼと 2020年9月号(第438号) 定価200円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 日本野鳥の会埼玉代表 山部直喜 (〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号) TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
 郵便振替 00190-3-121130 URL <http://www.wbsj-saitama.org> 事務局 office@wbsj-saitama.org
 編集部への原稿 yamabezuku@wbsj-saitama.org 編集部への野鳥情報 toridayori@wbsj-saitama.org
 住所変更などの連絡は gyomu@wbsj.org または TEL03-5436-2630 FAX03-5436-2635
 〒141-0031 品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル (公財)日本野鳥の会会員室へ

本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。印刷 関東図書株式会社